

| 財団法人 8020 推進財団 平成 21 年度歯科保健活動助成事業報告書抄録 | |
|---|---|
| 1. 事業名 | 高齢者における口腔機能向上を目指したセルフプログラムの開発および評価 |
| 2. 申請者名 | 社) 埼玉県歯科医師会 |
| 3. 実施組織 | 早稲田大学人間科学部応用健康科学研究室 社) 埼玉県歯科医師会地域保健部 |
| 4. 事業の概要: | <p>埼玉県歯科医師会地域保健部では、地元所沢市内の早稲田大学人間科学学術院と共同で、高齢者を対象とした口腔機能セルフケア行動促進の自助冊子を開発した。従来、高齢者の口腔機能向上を目的としたアプローチは、主に指示型、知識伝達型が中心であり、高齢者が日常生活の場で実施して行くには限界があった。本事業では、行動科学を専門とする早稲田大学応用健康科学研究室と共同でまずは約 171 名に対して事前調査を行い、高齢者が口腔機能を向上させる行動実施を妨げている要因、および促進させている要因を収集した。本冊子は、これらの情報を基に、行動変容理論・モデルの内容を盛り込んで作成し、どのような場面、状況の中で適用可能であるかを考察した。本事業の目的は、高齢者自らが口腔機能の低下を早期に発見し、改善した上で、彼らが自身の生活を楽しみ、自己実現できるように歯科口腔衛生の立場で支援することである。そのため、本事業では、口腔機能の向上に有用な行動を維持・継続できるように、歯科口腔衛生における行動変容の内容を検討し、具体的な内容を冊子において成果として提示した。</p> |
| 5. 事業の内容: | <ol style="list-style-type: none"> 1) 口腔機能の向上に繋がるセルフケアプログラム開発を行った。 2) 半構造化面接とフォーカスグループインタビューを用いたフォーマティブ・リサーチ（事前調査）を、埼玉県域から概ね歳 65 以上、約 171 名の高齢者を対象に実施した。 3) 調査結果を基に、特に高齢者の行動を妨げる要因、目標とする行動について情報収集を行った。 4) 情報の分析に基づいて自助冊子を開発した。その内容は、単に指示型、知識伝達型にとどまらず、行動変容を意図した内容であった。特に、高齢者の行動変容を導きやすくするために、行動変容ステージや多変数によるセグメント化を行って情報をグループ別に差別化し、加えてセルフモニタリングシートを挿入することで自宅での行動実施を促進させるように試みた。 5) 冊子は単体でも活用でき、既存の教室でも使えるように作成した。 6) 作成した冊子を基に、20 名の高齢者に内容を確認させ、意見を求めた。 |
| 6. 実施後の評価（今後の課題）: | <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域保健部が主催する 8020 運動推進事業「地域保健推進研修会」埼玉県地域保健推進フォーラムにおいて、成人歯科保健介護予防(口腔機能向上プログラム)の班で関係者に提示し、評価を行った。 2) 参加者にとって、この冊子は大変好評であった。また、今後の活用方法に関しては、参加者から様々な意見が得られた。特に、目標設定が各ステージごとに設定されていて、指導する側も受ける側も使いやすく、「冊子を見ながら実践していくと予防につながると思う」、「見て、聞いて、判って、生活の中に取り込んで使用できる」、「電子媒体にしたり、今後は冊子の使い方について研修会を開催して欲しい」という意見が出された。 3) 今後の課題として、歯科衛生に関わる様々な立場の違い、関わりの違いがあり、それぞれの役割ごとに冊子の使い方を検討したり、それぞれで使用した成果を分析する必要がある。今後、作成した冊子を用いていくつかの施設で介入アプローチを行う予定である。 |